

# 三小だより 春休み号



三小HPはこちら

## 「一人ひとりの力を着実に伸ばす」

校長 寺下 憲志

ふと校庭を見渡すと桜が咲き始めていました。陶器山も陽を浴び、春の訪れを感じさせます。先日、45名の児童が本校を巣立っていきました。4月から（正確には6月からです）最高学年として手本を見せてくれた6年生、中学校での活躍を願っています。



また、HPでも紹介しましたように16日に地域の代表のかたにお越しいただき、日ごろの感謝の気持ちを児童がお伝えしました。例年のように多くのかたに来ていただいて昼食を一緒にいただくことはできませんでしたが、気持ちを届けることはできたと思います。その際、校長室で昭和52年の開校当初の話や地域と学校の関わりについて何うこともでき、私にとっても有意義な時間となりました。

4月に赴任して1年、タイトルにあるように、一人ひとりを大切にしよう、他と比べるのではなく、その子がどう成長したのか、また成長させたのかにこだわろうと、職員とともに表題の目標を掲げ、学校運営を進めてきました。アンケートから、一定の評価をいただいているところですが、継続・見直す点もいくつかあります。

- ・読書活動を中心に児童の言葉の力を高める
- ・日々の授業や行事等から児童の「頑張り」を適切に評価し、保護者と共有することで児童の自己肯定感を高める
- ・PC等、ICTを使った授業づくりを研究し、授業の工夫改善に努める



学校評価の結果はこちら

前回紹介した、この3点、どう考えても学校だけではできません。とりわけ自己肯定感については、保護者はもちろんですが、地域の協力を得ながら行事等を行い、その過程や振り返りを通して大人が子どもに自信を持たせることで育まれることだと思います。

「小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち、基礎的なものを施すことを目的とする。」とあるように、小学校段階でしっかりとした基礎を築いておかないと、子どもたちの将来にわたって影響を与えることとなります。

新型コロナウイルス感染症に翻弄された今年度でしたが、対応はまだ続きます。新しい時代を生き抜く力を一人ひとりに着実に身に付けさせるため、大人の責任として保護者や地域、学校が力を合わせましょう。職員一同、努力してまいります。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。